

即興の連続

～あいだにたつこと～

住宅は新築で完成なのか...
住み手がその時の天候で内部と外部の境界を無意識に考える。時間が経ち、子ども部屋に乾式の壁を建て新たな住民が住むかもしれない。住み手が即物的な工夫の連続をするには、日常に潜む小さな発見であろう。そんな小さな発見ができることが生活の豊かさに繋がるのかもしれない。



【計画敷地】



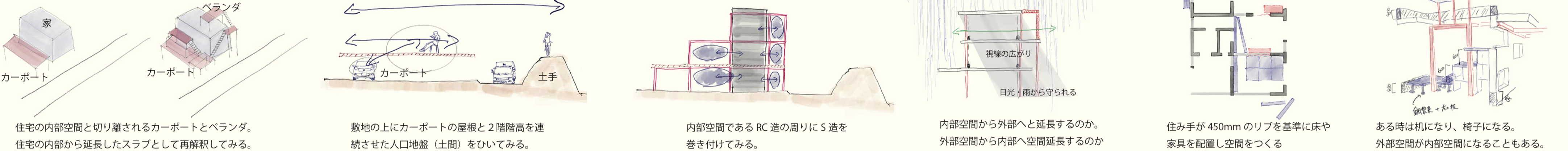
敷地は福井市に流れる足羽川の土手沿い。道路から3000mm程高い土手からは様々な発見ができる。橋を渡る宅配便の車、自転車で通学する学生、散歩をする老夫婦、幼い子とお母さんがピクニック、風の強さ、川の流れなど様々な時間の流れがこの土手では混在する。

【市街地を歩いて】



福井は雪の影響から陸屋根が目立つ。同時に屋上空間やベランダなど水平に広がる空間が大きい。また世帯当たりの車の保有台数が多いため敷地に対するカーポートの面積も大きい。しかし、これらの空間は住宅の内部空間と切り離されているように感じる。特徴的な要素を再構築し、生活の豊かさとは何かを考えた。

【設計手法】



住宅の内部空間と切り離されるカーポートとベランダ。住宅の内部から延長したスラブとして再解釈してみる。

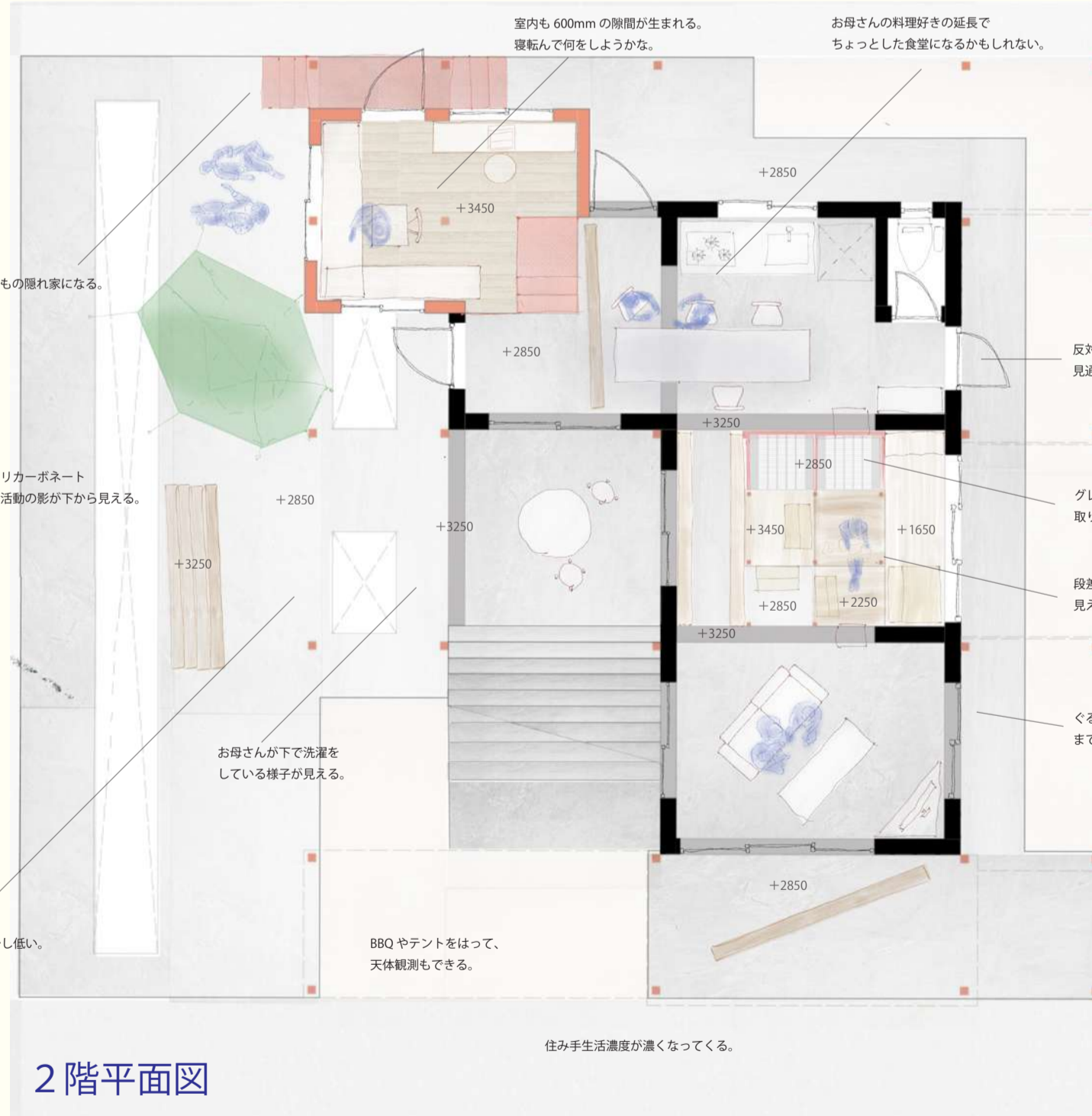
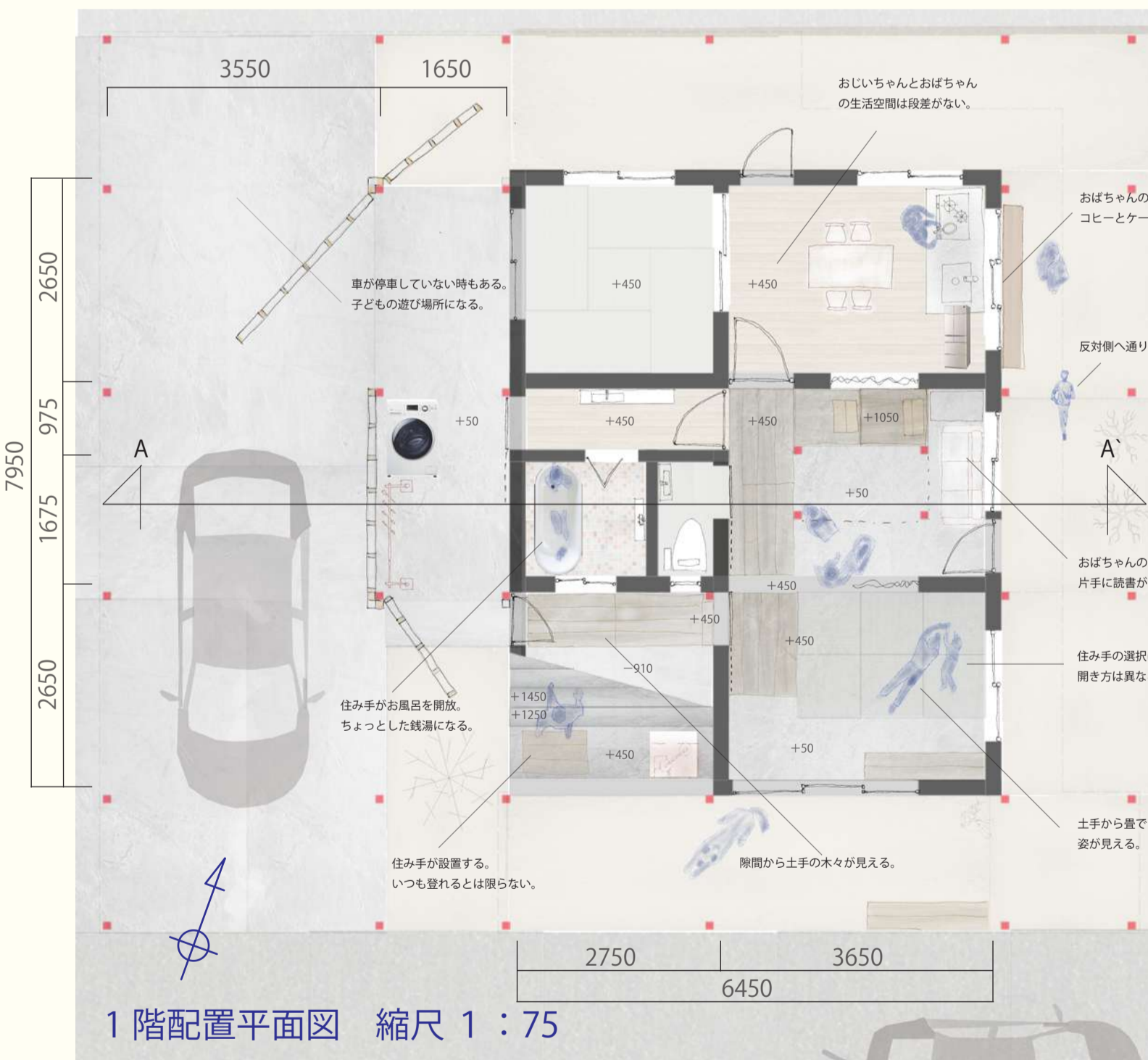
敷地上にカーポートの屋根と2階階高を連続させた人口地盤（土間）をひいてみる。

内部空間であるRC造の周りにS造を巻き付けてみる。

内部空間から外部へと延長するのか。外部空間から内部へ空間延長するのか

住み手が450mmのリップを基準に床や家具を配置し空間をつくる

ある時は机になり、椅子になる。外部空間が内部空間になることもある。



- 延床面積: 178㎡
- 敷地面積: 200㎡
- 建築構造: RC造 / 一部S造
- 家族構成: 祖父・祖母・父・母・息子・娘

